

# 薬剤師によるオーダー代行入力 チーム医療の新たな可能性を拓く

薬剤部・薬局訪問 第84回 地方独立行政法人りんくう総合医療センター



[地方独立行政法人 りんくう総合医療センター]  
大阪府泉佐野市りんくう往来北2-23

- 病院長: 伊豆蔵 正明
- 病床数: 348床
- 外来患者数: 1日平均約841人
- 外来患者への処方箋発行枚数: 1カ月平均約6,500枚  
院外処方箋発行率: 94.1%
- 薬剤師数: 21名(うち非常勤1名)

〈平成23年8月現在〉

りんくう総合医療センターの前身である市立泉佐野病院は1952年に地域の  
中核病院として設立されました。1997年に関西国際空港対岸の“りんくうタウン”  
に新築移転し、2009年に大阪府がん診療拠点病院の指定を受けました。今年  
の4月からは地方独立行政法人による運営に移行して新たなスタートを切り、  
高度先進医療を進めつつ地域の様々なニーズに対応しています。患者さん中心  
の医療を目指してチーム医療を推進  
する薬剤科の取組みについて、薬剤  
科部長の森朝紀文先生に何うととも  
に、病院長の伊豆蔵正明先生と医療  
安全管理者の則村正文さんに薬剤  
科への期待をお聞きました。

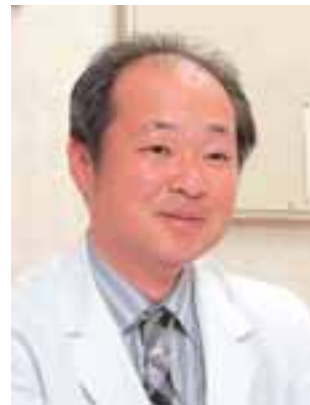


“研究心を持って日々努力する”を合い言葉に、様々な業務に果敢に挑む薬剤科の皆さん。

## チーム医療の新たな取組みとして オーダー代行入力を開始

●●現在、特に力を入れて取り組まれている内容をお教えてください。

**森朝** チーム医療の推進に力を入れて取り組んでいます。薬剤科では希望者を募り、ICT、NST、褥瘡チーム、緩和ケアチームの各チームに3~4名ずつ参加しています。週1回のラウンドには、毎回必ず同行しています。また、チーム医療の新たな取組みとして、今年の5月から循環器内科・心臓血管外科病棟で、継続処方(内服、外用、注射)の薬剤師によるオーダー代行入力を始めました。



薬剤科 部長 森朝 紀文先生

●●どのような経緯からオーダー代行入力を始めたのでしょうか。

**森朝** 当該病棟では、日中は手術やカテーテル検査のために医師が病棟に上がる時間を確保しづらく、薬剤のオーダー入力作業は大きな負担となっていました。そこで、薬剤科と循環器内科・心臓血管外科との間で実施時間や代行入力の範囲などを取り決め、病棟担当薬剤師がオーダー代行入力を行うことになりました。平日の日中に、病

棟担当薬剤師が患者さんのリストをもとに、カルテをチェックしながら代行入力します。ただ事務的に入力するのではなく、カルテや検査値を確認し、必要があれば医師に疑義照会しますので、安全面でも非常に意味のある業務だと思えます。

現在は1病棟のみの実施ですが、将来的には他の外科系病棟にも広げていきたいと考えています。

厚生労働省が昨年通知した「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進に

ついて」(厚生労働省医政局長通知:  
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/05/dl/s0512-6h.pdf>  
[2011年9月現在])では、薬剤師の積極的な処方提案などが示されています。オーダー代行入力は、そのような薬剤師の業務拡大に向けた第一歩になるのではないかと考えています。

## 末梢静脈用輸液を含む注射薬の 無菌調製も重要な業務

●●その他には、どのような業務に注力されていますか。

**森朝** がん化学療法への積極的な関



写真1 クリーンルームに2台のクリーンベンチを設置し、注射薬の無菌調製を実施。

とを進めており、抗がん剤レジメンの一元管理や、入院及び外来化学療法

の抗がん剤の調製を行っています。また医療安全も薬剤師が大いに貢献すべき業務ですので、TPN(中心静脈栄養)用輸液だけでなく、末梢静脈用輸液も含めた一般注射薬の無菌調製にも力を入れています(写真1)。注射薬の作り置きによる感染が社会的にも問題になっていますので、薬剤師が関与する意義は大きいと思います。日本病院薬剤師会監修の『注射剤・抗がん薬 無菌調製ガイドライン』(薬事日報社,2008)を遵守しながら、平日は4名態勢、休日も3名態勢で調製しています。

薬剤管理指導業務は年間目標を立てて実施しています。また、外来に持参薬鑑別コーナーを設け、入院患者さんの持参薬鑑別や、外来患者さんへの薬剤に関する相談なども行っています。

このように業務は非常に多岐に渡りますので、各業務を専任制にするの

ではなく、全員が様々な仕事に当たれるよう、また、各病棟に常に薬剤師が配置されるよう、時間単位でシフト制にしています。

### “研究心を持って日々努力する”を合い言葉に日常業務に取り組む

●●研究や学会発表に対するお考えをお聞かせください。

森朝 “研究心を持って日々努力する”を合い言葉に、常に「なぜだろう」と考えながら日常業務に励んでいます(写真2)。薬剤師主導の臨床研究を進め、学会発表や論文作成に積極的に取り組んでいます。学会参加も、薬剤関連の学会だけでなく、日本癌治療学会や日本循環

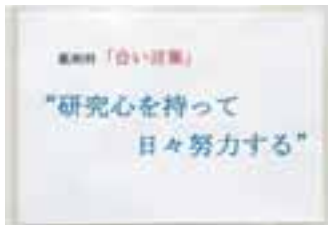


写真2 薬剤科の前に貼られた合い言葉。スタッフ全員の意気を奮い立たせています。

剤する保険薬局に対して注射薬に関する情報を積極的に提供することが大切です。患者さんの安全・安心を第一に考え、地域連携を更に進めたいと思います。

器学会、日本環境感染学会など医師主体の学会にも積極的に参加して知識を深め、医師との情報共有に努めています。

●●最後に、今後の抱負や展望をお聞かせください。

森朝 院外処方に移行したことで、直接関与しにくくなった外来患者さん

のフォローを強化することが課題です。例えば、外来化学療法では注射薬と内服薬の併用療法が増えています。副作用の管理のためには、内服薬を調剤する保険薬局に対して注射薬に関する情報を積極的に提供することが大切です。患者さんの安全・安心を第一に考え、地域連携を更に進めたいと思います。

### 薬剤師によるオーダ代行入力は医療安全の面でも意義が大きい

安全管理室では、インシデントレポート等の分析を元に医療事故の防止活動を行っています。どの施設でも言えることですが、インシデントの中で多数を占めるのが薬剤に関するものです。以前は病棟で看護師が注射薬の調製を行っていたため、ナースコールなどによる作業の中断が誤薬の原因になっていました。薬剤師が無菌調製を行うことでミスが減り、同時に配合変化などにも注意が払われるため、安全性が大きく向上しました。

薬剤師によるオーダ代行入力も非常に意義深い業務です。医師の負担が軽減されるだけでなく、薬剤の専門家である薬剤師の目を通すため、医療安全の面でも極めて大きな意味があると思います。(談)



医療安全管理者 則村 正文さん



病院長 伊豆蔵 正明先生

### ■地域連携の更なる活性化のために薬剤師に寄せられる期待は大きい

当センターは大阪南部、泉州地域の基幹病院として地域医療を担いながら、一方で大学病院にもひけをとらない高度先進医療を目指しています。この使命を果たす上で、医師だけでなく、薬剤師を初めとするコメディカルの力が大きく貢献しています。

その一例がチーム医療であり、薬剤師は非常に重要な役割を果たしています。また、オーダ代行入力でもその専門性が存分に発揮されており、医師から大きな信頼を得ています。

当センターは今年度、地域医療支援病院の申請を予定しており、地域連携を更に強化していきたいと考えています。薬剤科は現在も地域での勉強会などを通して地域連携に貢献していますが、更なる活性化のために、より大きな力を発揮してもらいたいと期待しています。(談)